

平成26年2月伊賀南部環境衛生組合議会第179回定例会会議録

平成26年2月6日(木曜日)

議事日程

平成26年2月6日(木曜日)午前10時44分開議

日程第1 会議録署名議員の指名

第2 会期の決定

第3 諸般の報告

第4 議案第1号 平成26年度伊賀南部環境衛生組合一般会計予算について
(提案理由の説明、質疑、討論、採決)

第5 議案第2号 平成25年度伊賀南部環境衛生組合一般会計補正予算(第3号)
について
(提案理由の説明、質疑、討論、採決)

出席議員

石井 政 浦崎 陽介 川合 滋 嶋岡 壯吉 豊岡 千代子
細矢 一宏 森 正敏 森岡 昭二 森川 徹 吉田 正己

説明のため出席した者

管理者	亀井 利克	副管理者	岡本 栄
副管理者	前田 國男	事務局長	田中 実
総務担当参事	夏秋 佳生	総務担当参事	前川 清
総務担当参事	澤井 成之	理事	大西 昌男
総務室長	手島 左千夫	業務室長	酒井 隆郎

事務局職員出席者

書記長	田中 耕作	書記次長	米山 暢子
書記	羽後 和秀	書記	高倉 俊明

午前10時44分開議

(議長石井政議長席に着く)

議長(石井政) ただいまから平成26年2月伊賀南部環境衛生組合議会第179回定例会を開会いたします。

これより本日の会議を開きます。

~~~~~

日程第1 会議録署名議員の指名

議長(石井政) 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第93条の規定により、森川徹議員、浦崎陽介議員を指名いたします。

~~~~~

日程第2 会期の決定

議長(石井政) 日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。本組合議会定例会の会期は、本日1日といたしたいと思いを。これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(石井政) ご異議なしと認めます。よって会期は、本日1日と決しました。

~~~~~

日程第3 諸般の報告

議長(石井政) 日程第3、諸般の報告をいたします。

管理者から損害賠償請求の和解についての専決処分の報告、監査委員から平成25年10月、11月、12月及び平成26年1月に執行した例月出納検査結果並びに平成25年度執行の定期監査結果の報告を受けました。報告書は、お手元に配付のとおりであります。

~~~~~

日程第4 議案第1号 平成25年度伊賀南部環境衛生組合一般会計予算について

議長(石井政) 日程第4、議案第1号を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。管理者。

(管理者亀井利克登壇)

管理者(亀井利克) ただいま上程されました議案第1号、平成26年度伊賀南部環境衛生組合一般会計予算につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

まず、歳出予算の主なものを申し上げます。

総務費は、退職手当を含めた人件費を初め事務的経費や施設管理経費など1億4,096万1,000円でございます。

次に、環境衛生費であります。収塵車管理費は、ごみ収集業務委託や指定ごみ袋に係る経費など収集業務に係る経費であり、クリーンセンター費は、クリーンセンター運営管理業務委託や飛灰処理委託などの工場運営経費でございます。また、中継所費、最終処分場費、し尿処理場費につきましてはそれぞれ施設の維持管理及び運営に係る経費でございます。また、ストックヤード管理費は、旧清掃工場跡地に設置した紙、繊維類の保管施設の管理運営に係る経費でございます。

以上、環境衛生費の総額は14億4,449万円でございます。

公債費は、組合債に係る元利償還金などで2億4,422万1,000円を計上し、予備費には不測の支出に備え500万円を計上いたしております。

続きまして、これらの財源となります歳入でございますが、名張市及び伊賀市それぞれにご負担いただいております分担金は、名張市から13億9,549万円、伊賀市から1億6,482万7,000円で、合わせまして15億6,031万7,000円をお願いいたしております。

次に、使用料及び手数料では、施設への直接搬入や指定ごみ袋による廃棄物処理手数料などで2億826万円を計上いたしております。

また、その他の収入といたしましては、繰越金、諸収入を合わせまして6,632万3,000円を計上いたしております。

以上、申し上げました平成26年度一般会計予算総額は18億3,490万円で、前年度との比較で1億5,870万円の増加となっております。何とぞよろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願いを申し上げ、提案理由のご説明といたします。

議長（石井政） これより質疑を行います。なお、本日の質疑は、会議規則第43条の規定により3回までといたします。浦崎陽介議員。

議員（浦崎陽介） 一般会計に伴いまして数点質疑をさせていただきたいと思っております。

予算書の13ページ、収塵車管理費についてお伺いをしたいと思っておりますけれども、3回ということ非常に難しいなと思っておりますけれども、この中にたしかパッカー車等の費用等も管理費等も入っているかと思われましてけれども、名張市ではスマートシティというのは今後進めていこうという取り組みの一つだと思っております。市長も、その辺のことをよく議会とか、ご挨拶のところでも申し上げているのをよく耳に

いたします。

先立ってからは、名張市は再生可能エネルギーも活用していくんだということで、太陽光だとか、例えば廃食油を使ったバイオディーゼル、BDFですよね、この辺をこの間の太陽光発電の際にご挨拶を市長が申しておりましたことをちょっと思い出して、今議会に質問をしたいなということで考えておったわけですがけれども、名張市ではパッカー車、この組合議会ではパッカー車があると思うんですけども、そのパッカー車や例えば場内のフォークリフトや重機だとか、そういうものに対してこういうBDF、名張市でもBDFを精製しているところがございます。そういうところからそういう再生可能エネルギー、廃食油もBDFというのをどのように今使っておられるのかって、朝確認をしたわけなんです。

パッカー車とか全部入れているんだろうなと僕は思っていたわけなんですけども、名張市では伊賀南部ではまだ2台、フォークリフトと重機ですか、この2台しか使っていないということでお聞きいたしました。

私もこの名張市議会のときに、視察で岡山の方へ行かせていただいたときに、このバイオディーゼル、BDFを利用したパッカー車、すべてのそこの自治体はパッカー車にバイオディーゼルを入れてあったんです。

いろいろと聞いたら、故障等が世間では言われておったんですけども、そんなに故障はないよということ聞いております。新車で買った際にはメーカー推奨の燃料じゃないですから、保証がなかなかききづらいということも聞いておりましたけども、95対5で、5%だけでも入れるとこれは普通の燃料としてJIS法だとか、国が定める燃料として認められているということで、100%にするとなかなか難しいんですけども、まずもってこういう再生可能エネルギーが世の中に普及させていこうと思ったら、やはり行政が自ら導入をして実績を作っていく必要があると思うんですけども、その辺を今後伊賀南部のそのこういうバイオディーゼルというものをもっともっと導入していく必要があると思うんですけども、その辺を一点聞きたいのと、そしてまたこういうBDFがこの名張市内でも、例えばスタンド、名張市内では1業者が販売はしておりますけども、例えばスタンドでも販売は簡単にできるらしんですよ。

例えば、ホームセンター等でもやろうと思えばできますし、そういう普及にやはり伊賀南部としてもこういうリユース、リサイクルという観点からスマートシティというのも名張市では掲げておりますけども、その辺を聞いておきたいのと、この際名張市長

も伊賀市長もおられます。このスマートシティーに関して、今後どのように両市で足並みそろえながらやっていくのか、その辺を両管理者に聞いておきたいなと思うんですけども、いかがですか。

議長（石井政） 管理者。

管理者（亀井利克） スマートシティー構想については、私どもの総合計画の中でもうたっていることですので、これをより推進していくということにいたしてございますが、伊賀市さんと協働してということにつきましてはまだそういう協議もいたしてございませんので、それは今もって私の方から答弁申し上げるわけにはいきませんが、先ほど申されました廃食油を使ってディーゼルの燃料を作ると、この施設につきましては私どもも大いに期待して、私どもの小学校から出る油をすべてそこで精製をしていただいているわけです。

それは、今度はきちっと出口を作っていかなければなりません、それは今現在はその事業者さんの自家使用でやられているのがほとんどです。しかしながら、私どももそれを使わせていただかなければならないということで、今実験的に使わせていただきますが、これをどんどんいけるなということであればどんどん増やしていくということにいたしておりますし、私は元々あそこ採算が取れないんですよ、申し訳ないなと思っているんです。

それで、ほかのスーパーとかのそういうところへ当たらせているんですが、それは全国展開で、例えばそのAというショッピングであればチェーン店になってますから、それを精鋭の方がいらっしゃるわけですよ、全国展開しているわけですから。ですので、すべてそこが一手に引き受けてやっていると、Bというそれじゃあデパートさんもそういうことでずっとやっているというふうなことでございまして、なかなか出ないんですが、私も名張だけはそこへ出さんと何とかこういうところへ、名張の肝いりでもありますから、名張が支出しているわけではないんですけども、私もそういうところへお願いに行かせていただいた方がいいのではないかなというふうには今思っているところでございます、もっともっとその集めてくる量を増やさなければならぬとこんなふうに思っています。

これ、今の部分については自家使用とうちで使わせていただいているので、大体賄われているわけです。ちょっと補足説明させます。

議長（石井政） 理事。

理事（大西昌男） 車両へのBDFの使用についてでございますが、議員ご所見のとおり、現在最終処分場で平成4年式のホイロローダー1台、それからクリーンセンターで平成10年式のフォークリフト1台についてBDF100%で運用しております。現在のところ600リッターの燃料を使用しております。

これにつきましては、昨年6月からBDFの割合を5%、10%と少しずつふやして行って実験をしております、現在はBDF100ということで、この結果につきましては出力の若干の低下があるということと、それから寒い時期には始動のときに黒鉛が出るということ、それから燃料フィルターのパッキンの変形が若干見られるということがございます。

こういうふうな若干の不具合等もございますが、この結果を踏まえまして次年度以降につきましてもBDFを使える重機等を増やすように検討してまいりたいと考えております。

議長（石井政） 副管理者。

副管理者（岡本栄） 今議員さんからの大変興味深いご提言をいただいたというふうに思っております。そのBDF作ってじゃあどうするんだというところがこれからますます大事になってくるわけでありまして。今、管理者の方からも採算ベースの話もありましたけれども、行政としましてはやはりそれを、そうしたことを勘案しながらもまず使用していく、普及を図るという啓発をしていくということが大事であるんで、私どもの伊賀市においてもそうしたことを名張市さんと一緒に研究していくことがあればやっていきたいなと今思わせていただいたところでありますし、一般的な話で言いますと、この伊賀地域において身近なことからともに取り組んでいくということがこれからの厳しい情勢の中で、この伊賀地域をしっかりと市民が安心して暮らせる快適なまちにしていく、地域にしていくということは大変大事だろうなと、その辺のところも思わせていただいた次第であります。

議長（石井政） 浦崎陽介議員。

議員（浦崎陽介） ありがとうございます。管理者からも、副管理者からも前向きなご答弁をいただいたわけでございます。

名張市としては、総合計画の中でも位置づけているということですが、その辺でしっかりと位置づけてあるわけですし、そうした肝いりの企業さんも頑張っているわけでございます。

朝からも聞いたわけですけども、じゃあ名張市がパッカー車に入れていると需要と供給の需要側として大丈夫なんですかと言ったら、全然今の現状でもパッカー車入れていくぐらいの量は確保できているということをお願いしました。

参考がてら聞いておくんですけども、伊賀市側、伊賀市と名張市が合同でやっている組合議会でありますから、伊賀市のことも少しちょっと今副管理者からありましたんで、ちょっとお聞きをいたしますけども、いがっこ給食センターというのがあると思うんですけども、あそこから出てくる廃食油というのは現在どのように扱われているのか、例えば今名張市と合同でしているところで、そういうふうに合同で副管理者で少しでも考えていただけるならば、そういうところも一緒になって廃食油を伊賀市とも協力いただいて、お互いで協力し合って、本当にCO₂削減、また経費の削減にもつながりますし、やはりしっかりとそれは資源、再生可能エネルギーというものを自治体独自でしっかりと研究していくということが民間に大きく波及してくると思うんですよ。

やはりリーダーシップを両市で図って、再生可能エネルギーというものを検証していく必要があると思います。その辺がもし、少し伊賀市の方がお知りでしたらお聞きをいたしたいのと、3回というこのあれがありますので、もう少し他のことも聞きますけども、その1点と例えばその燃料代ですよ。これが大体普通の燃料を購入するのと、このBDFを購入するのにどれぐらいの料金の差があるのか、また料金だけではなくて、安いエンジンで燃費が悪かったら意味がないんですよ。

燃費というものの実証というんですか、フォークリフトに入れたときの稼働時間等、その辺も聞いておきたいのと、例えば本当に今フォークリフトがありましたけども、フォークリフトは僕自身はその利用頻度にもよるでしょう、どんなことに利用するかにもよるでしょうけど、これは電気でもいいんじゃないかなと、またその辺の買換えも考えていただくのが本当にCO₂削減につながってくるんじゃないかなと、それで名張市の新神戸電機さんのバッテリーの導入を指定をしていただいて、そういうのもまた一つ考えていただきたいなと思うんですけども、先ほど少しの不具合があると言っておりましたけども、その不具合というのもそのゴム、燃料ポンプから出ているゴムなんですけども、噴射ポンプからつながっているゴムが普通のゴムやったらやはり僕も聞くところによると、数年利用すると膨張して溶けてくる可能性はあるってもう初めからわかってるらしいんですね。

だから、今現在新車の例えばトラックを購入しても、フッ素、フッ素の対応した配管

に変えるというので、もうそれは余り省エネにならないということで数万円でできる、数万円というか、本当にごくわずかなお金でできるということですが、そういうこともどんだんだんだんこれから研究をしていていただきたいなと、フォークリフトとか重機の方でパッキンの変形があったということでしたけども、じゃあその旨をどうしたら解消できるかというのは、データとして全国にたくさんあります。

例えば重機メーカーであったり、車両メーカーであったり、例えば経済産業省であったり、環境省であったり、さまざまなところにこういうデータ、どういう対策をしたらこういうBDFが故障しないで使っていけるかというデータもありまして、その辺をしっかりと調べていただきたい。

また、黒鉛が出ると言っておりましたけども、これはバイオディーゼルだけじゃなくて、ディーゼルを使っていると経年劣化で黒鉛というのは普通の販売するディーゼルでも黒鉛は出るもんです。それは、しっかりメンテしなければ、グロープラグであったり、さまざまな点、フィルターであったり、そういうところを掃除しなければ出てきますんで、これはきょうは東京の方の業者に聞いた訳なんですけども、これはバイオディーゼルだけじゃなくて軽油も出てくるから、その辺は変わりがないんだと言って自信を持って言うておられましたけども、その辺を今の2点、細かい部分の1点と伊賀市では現在どうしておるのか、またなかなかこの場でね、いがっこのやつに名張市と一緒にそういうのをしますということはなかなか言いづらいでしょうけども、この場で、どんな状況なのか。

例えば、伊賀市さん側では廃食油というものを企業が名張より多いですよ、食品関係のところも、そういうところの廃食油関係は伊賀市は伊賀市で集めて何かされているのか、参考にお聞きしたいと思いますけど、いかがですか。

議長（石井政） 総務担当参事。

総務担当参事（前川清） 今、いがっこの給食センターの油をどうしているかというように、これに関してはちょっと把握しておりませんので、申し訳ございません。

それから、家庭から出る廃食油でありますけど、これは2月に1回集めておりまして、これは有償で販売しておりますところでございます。

議長（石井政） 理事。

理事（大西昌男） BDF等軽油の単価でございますが、現在私たちが納入しておりますBDFにつきましては税抜きでリッター当たり100円、それから軽油につきましては

日々変わっておりますが、税抜きで130円程度ということを考えております。

それから、今後の増やしていくフォークリフト等に増やしていくということと燃費等でございますが、若干出力の低下があるということで作業員からの報告を受けておりますので、若干燃費は悪くなるのかなとは思いますが。

ただ、リッター幾らというのは普通の乗用車のように出ませんで、時間ということでございますが、余り変わらないのではないかと考えております。

それから、今年度の先ほどご答弁申し上げました結果によりまして、使えるフォークリフト等重機があれば、来年度新たにBDFを使うというふうなことを考えていきたいと思っております。

議長（石井政） 浦崎陽介議員。

議員（浦崎陽介） 3回目ということで、これで最後の質問になるわけですが、今フォークリフトで活用していただけると言っておりましたけども、フォークリフトだけじゃなくてパッカー車、伊賀南部でお使いの軽油をパッカー車だけじゃないですけども、2トントラック、まず車両に入れて僕は活用していただきたい。

たしか、あれ倉敷市やったか岡山の方のところの視察に行ったときに、すべての自治体が使っている車は廃食油で走っております。最近ではバス等も、路線バス等でも活用されておりますので、そういうフォークリフトだけじゃなくて、できたら車両での検証をしていただきたい。それがまた強いて言うと、社会全体の検証、研究データとして担えるんじゃないかなと思いますし、しっかりとその辺の整理さえすればできますし、あと今日ちょっと聞いたんですけど、その成分表というのがあるらしいんですね。

このバイオディーゼルの中にも何と申しましょうか、作る工程でパワーがあったり、パワーがなかったり、いろいろとその作る場所の独自性が出てくるらしいんですけども、名張市ではそういう成分表というのをバイオディーゼルの購入する業者からの提出をいただいているんでしょうか。

やはりその何が言いたいかというと、成分表を見てやはり検証ができるらしいんですよ。これはいい燃料だ、悪い燃料だということで、名張が作っている燃料はいいと思いますけども、もっと良くしようと思ったら、お互いがそういうデータの共有をいただいで、もう少しこの数値上げれるように努力できないかとか、そのお互いが研究開発で企業さんもそれでまた燃料のレベルが上がれば企業レベルも上がってきますし、市と

してもそういうデータを出すことによってまた検証できるでしょうし、そういう面で成分表というものをしっかりといただいておりますのかどうかというのを聞きたいのと、フォークリフトだけではなくて、車両で来年度活用をするというお声をいただきたいんですけど、その辺をいかがなものかなと思っております。

伊賀市さんでは、そういうふうに毎回月数回に分けて集めて、それを販売してくれているということでありましたので、そういう利用価値というのをしっかりと見出しているんだらうなと思っております。

副管理者からもありました足並みそろえて、そういうスマートシティ構想と一緒にできるのであればという声もありましたので、こういう自治体の垣根を越えて議論ができるのはこの広域でありますので、しっかりこういう広域議会の中でまたそういう名張市、伊賀市と垣根を越えて、そういう新たなバイオディーゼル再生可能エネルギーというものを活用したスマートシティ構想というのをまた何らかの形で議論をしていただいて、これから原子力とかもいろいろ言われておりますけども、やはり自治体が自ら努力しなければなかなか民間に波及していきませんので、ぜひともその辺を伊賀市、名張市で組合、そういうところでまた頑張っていたきたいと思うんですけども、またそれにも何か意気込みがありましたら、お答えをいただきたいと思います。

以上です。

議長（石井政） 理事。

理事（大西昌男） 成分表につきましては、ちょっと覚えがございません。

ただ、廃食油をそのまま入れるというのではなく、グリセリン分を除いたり、そこにメタノールを添加したりというふうなことでございまして、今後どういうものを添加すればもっといいものができるかというのは、納入業者とともに研究していきたいと考えております。

それから、パッカー車、公道を走る車両でということではございしましたが、これにつきましては最近のこのディーゼル車というのはコモンレール式というような排ガスの浄化機能をつけた車になっておりまして、これにつきましては納入業者からこの装置がついたパッカー車にはB D F 100はできないよと言われておりますので、古い車両で可能なものがあるかどうか検証しまして、今後研究していきたいと考えております。

議長（石井政） ほかに質疑はございませんか。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

議長（石井政） ないようでありますから、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

議長（石井政） 討論がないようでありますので、討論を終結いたします。

これより議案第1号について採決いたします。本案は、原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（石井政） 起立全員であります。よって議案第1号は、原案のとおり可決されました。

~~~~~

日程第5 議案第2号 平成25年度伊賀南部環境衛生組合一般会計補正予算（第3号）  
について

議長（石井政） 日程第5、議案第2号を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。管理者。

（管理者亀井利克登壇）

管理者（亀井利克） ただいま上程されました議案第2号、平成25年度伊賀南部環境衛生組合一般会計補正予算第3号につきまして、提案理由のご説明を申し上げます。

今回お願いいたします補正予算は、人件費の精査のほか、それぞれの事業の進捗を踏まえ、所要額の精査をいたしたものでございます。

それでは、歳出からご説明申し上げます。

まず、総務費は一般管理費を初め環境衛生費の各費目における職員人件費等におきましては収集及びクリーンセンター業務体制の見直しによる職員の配置替えに伴い、それぞれ所要額の精査を行っております。

清掃費の収塵車管理費では、入札で確定いたしましたごみ収集車の購入に係る事業費を885万1,000円減額するとともに、指定ごみ袋の価格引き下げに伴い、各店舗から引き取る在庫分が当初想定していた過年度分での購入分よりも本年4月以降の納入に係る在庫の割合が増加したため594万円を減額いたしております。

クリーンセンター費では、機械設備の点検等により新たに修繕を行う経費として302万6,000円を増額いたしておりますとともに、使用電力量に係る利用者賦課金の負担増等により光熱水費450万円をし尿処理場費におきましても同様に250万円をそれぞれ増

額いたしております。

続きまして、歳入についてご説明申し上げます。

まず、廃棄物処理手数料では、各処理手数料の収入状況に基づき収入見込み額を精査するとともに、名張市ごみ処理手数料では指定ごみ袋の価格引き下げに伴う減収分及び各店舗の在庫分の引き取りに係る返還金を合わせまして1,354万円を減額いたしております。この結果、分担金は名張市分が96万8,000円の減額、伊賀市分が215万6,000円の減額となり、合わせて312万4,000円を減額いたしております。

これらによりまして、補正後の歳入歳出総額はそれぞれ16億6,200万3,000円となっております。

以上が今回お願いいたします補正予算の概要でございます。何とぞよろしくご審議を賜りましてご決定くださいますようお願いを申し上げ、提案理由のご説明とさせていただきます。

議長（石井政） これより質疑を行います。浦崎陽介議員。

議員（浦崎陽介） 何度も申し訳ございません。

補正予算にかかわりまして、2点ほど質疑をさせていただきます。

13ページの中継所費が減額をされておりますけども、減額をされている理由もわかりですけども、名張市の中継所がつつじが丘にございますけども、そのつつじが丘の中継所というのが本当に今どのぐらいの頻度で動いておるのか、1日の利用件数だとか、月、年、その辺の利用件数がわかれば教えていただきたいと思っております。

あと、中継所の搬入に関しては、黄色のごみ袋に入れるということです。また、他は200円の券をかうてというのかな、粗大ごみに関してはそういう形でしてると聞いているんですけども、クリーンセンターに入れる名張市が持っていくのと、中継所に持っていくのとでは少し値段が割高、割安というのがあるんですけども、その辺の是正というのはどのように考えておられるのか。

また、最終処分場のもともと使っておった処分場のところに、スケールというのかな、はかりがあると思うんですよ。はかりは、先ほども聞いたんですけども、2年に1回検査をしなければ、これははかりとしてお金を取ることができない、計った分に関して料金が取れない。

もともと本来この中継所というのはそういう形で作ったのではないんでしょうけども、このしっかりとあるものを利用できるかどうか、僕もちょっと定かではないんです

けども、宝の持ち腐れというか、必要なければもう撤去して、よそにも売却でも鉄としてでもできるでしょうし、別にはかりとしてお金を取れない、とる必要のある方は自分のところで使うはかりに使っているだけでいいのかなというちょっと疑問符があるんですけども、はかりというのもすごく高額なものでありますんで、そういう検査等は今後していく必要性があるのかないのか、はかりというのはある程度誤差が生じますので、それをしっかりとはかりをどうされるのか、また中継所としての今後新たな発展、例えば中継所でも計っていった何かできる行為を増やしていくのか、逆にもう中継所はやめていこうという気があるのか、今後のそのビジョンですよ。

名張市民に当時建設に当たったときは、クリーンセンター建設の約束として中継所を設けて負担を軽減するということでしたけども、その辺一定のこれまでの検証もできているでしょうし、中継所というのを今後どのように考えていくのか、新たな発展をしていくのか、縮小をしていくのか、これまでどおり粛々とやっていかれるのか、その辺を聞いておきたいなと思っております。

もう一点、3回という質疑でありますので続けて質疑をさせていただきますけども、廃品の売却料金が出ておったと、売却収入が雑収入として9ページで減額がされておりますけども、これがいろんなものの売却を見越した額の減額だと思うんですけども、名張市ではそのいろんなものを資源等を活用してリユース、リサイクルという形で売却をしてくれていると思うんですけども、1点聞きたいのがあるんですよ。

ごみ収集車で走っていただいたり、粗大ごみで受け入れていただいたら、おもちゃというのがあるんですよ、玩具。玩具って結構古い玩具ですよ。我々が小さいころ使っていた玩具、また皆様方が使っていた玩具、これ今結構そういう業界では高値で取引をされているんですよ。

昔のラジコンであったり、おもちゃであったり、ボードゲームであったり、これ皆さんの想像している額よりすごい高値で販売をされております。そういう専門業者もありますし、例えば名張市ではインターネットオークションというものを活用されておりますけども、そういうところにリユース、リサイクルという面でそういう玩具、本当に昭和の時代の玩具であったり、希少だけじゃなくて、非常に高価なものが取引されているものがありますので、ぜひとも玩具等もほかさないで何かに活用していただきたいなと思っております。

また、私は個人的に子供たちには自分たちが使ったおもちゃだとか、映像とか、自分

が見た小さいころのマンガやドラマを見せて教育している訳なんですけども、そういう面からも昔のものってすごくいいですから、ただ単にごみとして焼却するんじゃなくて、価値のわかる人にはすごくわかりますんで、ぜひともこの伊賀南部環境衛生組合の中でもそういうインターネット公募で売れるような物、売れるような物といったら聞こえが悪いですけども、リユース、リサイクルができるようなものというのをしっかりとまた社会に戻していただきたいなど、いろんな粗大ごみとして価値のわからない方がほかされる方もおられますんで、そういう物を次世代に伝えていくという面からもそういうおもちゃ、皆さん考えたら何言うてるんやなという話なんでしょうけど、ぜひ一度そういう今おもちゃという古い玩具、いろんな種類がありますんで、そういうのに伊賀南部に集められた中から金銭的目的だけじゃなくて、いろんな文化の継承という面でもほかされていく物を次世代へ残すという観点からもインターネット購買やそういう専門の知識を少しつけていってもいいんじゃないかなと思っておりますけど、いかがですか。この2点、お答えいただきたいと思います。

議長（石井政） 理事。

理事（大西昌男） 中継所の利用状況でございますが、平成23年度日平均43件、平成24年度46件、25年度は1月末までで平均47件というふうなことでございます。

それから、玩具をオークションとかで引き取ってきたものを売ってはどうかということでございますが、現在玩具につきましては行っておりませんが、粗大ごみの中で再生利用できるようなたんすとかテーブル、椅子等につきましては、現在家具の再生販売ということで収集員がこれは売れそうだとこのをピックアップして、現在、今クリーンセンターで展示販売しております。

以上でございます。

議長（石井政） 事務局長。

事務局長（田中実） もう一点、はかりのお尋ねがございました。

現在、中継所の方では以前に利用しておったはかりがございまして、中継所そのものの性質を申し上げますと、もともとはこのクリーンセンターを新しく建てたときに、このクリーンセンターと戸別収集ということで設置したものの、青山地域に設置したということの名張市の西部、南部地域からの距離が遠距離になるということの一時的な保管という形の中で中継所を設けたということであります。

こうした点では、今現在袋の利用と粗大ごみに限定して利用させていただいておりま

すので、今後におきましても計量器をさらに整備をして使うということの考えはございませんし、一方つつじが丘の地域としてはこの中継所そのものも閉じてほしいという要望をいただいております。

こうした地域の声も踏まえまして、今後の方向性については検討してまいりたいとこのように考えております。

議長（石井政） 副管理者。

副管理者（岡本栄） 玩具の件について、一言だけお答えをしておこうかと思えます。

ご指摘のように、我々が使ったあるいは私たちの次の世代が使ったような玩具の中で、ソフビ人形と言われるようなものがあります。普通の人間から見れば単なるごみとしか見えないんですが、これマニアにとっては垂涎のものがありまして、1個数十万円あるいはそれ以上というようなものもあるわけで、ですからそうして収集された中にそうしたものがある可能性もこれは結構あるわけです。

ただ、問題はそれを見る人間がいるかどうかということですので、誰かわかる人間をまとめておいて見ていただくというようなことも可能ではないかと思えますが、そのときにまた人件費とのつり合いとか、あろうかとは思います。

ただ、大変そういう意味では収益を上げるという、雑収入として収益を上げるという意味では大変おもしろい分野だというふうに少しお答えをさせていただきたいと思えます。

議長（石井政） 浦崎陽介議員。

議員（浦崎陽介） ありがとうございます。

副管理者からご答弁いただけるなんて本当に思ってもみなかったわけですけども、副管理者もおもちゃには少し興味持っていていただいているのかなと、私も結構昔のおもちゃというものをすごく今勉強してまして、本当に言われるように、中にはソフビであったり、例えばミニカーであったり、当時の利用してた玩具、何というんですか、電子玩具というんですか、車で走り回るような、ああいうのもすごく高値で取引されていたり、各分野、分野に分かれておもちゃ業界というのは、古いのが価値があるやつがすごいあるんですよ。

だから、皆さんご想像以上の金額がとれる、捻出できると思うんです。ただ、本当にさっきも言うように、金額だけじゃなくて、次世代へのそういうおもちゃをただごみとしてほかすんじゃなくて、文化として引き継いでいくというのも我々の責務なんじゃない

いかなと、日本がいいものを作っていた、今、海外から入ってきた粗悪なものが、買って1日や2日で壊れるおもちゃがありますけども、日本の原点は物づくりでありますから、そういう物づくりの原点を子供たちに継承していくという観点からも、本当にそういう教育の面からもいい取り組みだと思しますので、ぜひともそういう玩具をただ単にごみとしてほかすんじゃなくて、そのごみの中身は玩具や骨董だとかもあると思います。

だから、これからただ単にほかすんじゃなくて、今管理者の言われるようにまとめておいて、そういう人にも人件費をかけて、名張市はこれぐらいが出てるからぜひともまとめて見に来ていただきたい、古物商の方にもお金もかけずに見に来ていと、3カ月に1回はやるんで、そこで入札で落としてもらってもいいとか、インターネットで取るというんやったらまた写真撮ったり手間もかかりますけど、インターネットというのは今日本だけじゃなくて海外、この日本のおもちゃが海外で高値で売れてるんですよ。

例えば、僕もびっくりしたのが日本人が書いたはがき、昭和初期の、これが高く売れてたり、漢字で書いてるだけなんですよ、はがきが。三重県菰野町何々と書いてあって、何々宛てというはがきが海外に高く売れる時代なんですよ。

世界に通ずるオークションというのが今ありますんで、そういうのも自治体でも入れるでしょうし、そういうのを活用して、やはりリユース、リサイクルを努めていただきたい。

伊賀市の副管理者はその辺はご理解いただいたのかなと思っております。ありがとうございます。

また、中継所に関しましてですけど、中継所に関しましてはつつじが丘、その辺ご要望があるということでもありますので、やはりしっかりいろいろこれからの検証をしていただいて、何がどう必要かということをしっかり検証していただきたいなと思っております。地域の声、また名張市民全体の声も反映していただきたいなと思っております。

また、計量器についてなんですけども、計量器もあれ買えばすごく高いと思うんですよ。やっぱりああいうものを宝の持ち腐れじゃないですけども、今現状は利用は可能だと聞くんですよ。でも、それを料金を取ったり、しっかりとその2年に1回の検証をおかなければ、料金を正確に取るはかりとしての活用ができないと聞いておりますので、あれの利用価値というものも今後何かまた考えていただきたいなと、いろんな例えばこと考えつくと思うんですよ。あれも、やっぱり税金で購入したものですから、ごみとして

今後さびさせていくのか、古い物でも活用していく努力をしていくのかというのはまた担当者にかかっていると思いますので、ぜひともしっかりとその辺も検証をしていただきたいと思っております。

しっかりとこの中継所、また備品、リサイクルに関していろんな情報を収集しながら、行政をまた引っ張っていただきたいなと思っております。

以上で質問を終わります。ありがとうございます。

議長（石井政） ほかに質疑はございませんか。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

議長（石井政） ないようでありますから、これをもって質疑を終結いたします。

これより討論を行います。

（「議事進行」と呼ぶ者あり）

議長（石井政） 討論がないようでありますので、討論を終結いたします。

これより議案第2号について採決いたします。本案は、原案のとおり決することに賛成の議員の起立を求めます。

（賛成者起立）

議長（石井政） 起立全員であります。よって議案第2号は原案のとおり可決されました。

~~~~~

議長（石井政） 以上をもちまして本組合議会定例会に付議されました事件はすべて終了いたしました。

これをもって、平成26年2月伊賀南部環境衛生組合議会第179回定例会を閉会いたします。

午前11時30分閉会

~~~~~

議長は、この会議録をつくり、署名者とともに署名する。

議 長

議 員

議 員